



あつ つめ かん
熱い、冷たいなどはどうして感じるの

あつ つめ かん
熱さや冷たさを感じるところがある

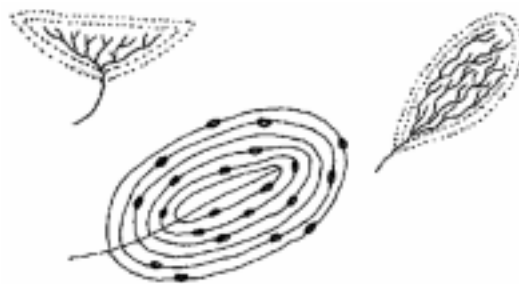
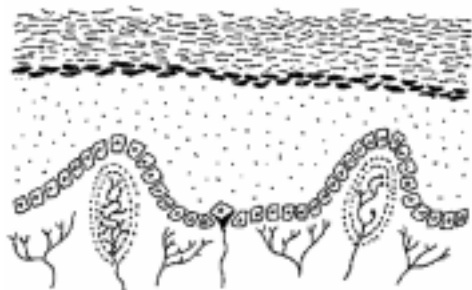
あつ つめ かん
 熱いものや冷たいものが ^{からだ} 体にふれると、「あちっ」「つめたい」などと、わたしたちは
 すぐに ^{はんのう} 反応してしまいます。これは、^ひ 皮ふに、^{あつ つめ かん} 熱さや冷たさを感じるところがあるから
 です。ところで、この ^ひ 皮ふにある ^{あつ かん} 熱さを感じるところと、^{つめ かん} 冷たさを感じるところとは、^{べつ} 別
 々にあるのです。つまり、^{あつ かん} 熱さを感じるところに ^{おんど たか} 温度の高いものがふれると、「^{あつ} 熱い」と
^{かん つめ かん} 感じ、冷たさを感じるところに ^{おんど ひく} 温度の低いものがふれると、「^{つめ かん} 冷たい」と感じるのです。

ですから、^{あつ つめ かん} 熱さや冷たさを感じる点がないところに、^{なに} 何かがふれたとしても、「^{なに} 何かが
 さわったな」くらいに ^{かん} しか感じないのです。つまり、^{あつ つめ かん} 熱さや冷たさを感じるのは、それを
^{かん} 感じる ^{てん} ところ（点）が ^ひ 皮ふにあるからで、^{からだ ひょうめん} 体の表面に、たくさん ^な ちらばっているのです。

ひ かん
皮ふには、いろいろなものを感じるしくみがある

ひ かん
 皮ふが ^{かん} 感じとるものには、^{つうかく} 痛覚（痛さ）・^{しよっかく} 触覚（さわる）・^{おんかく あた} 温覚（温かさ）・^{れいかく つめ} 冷覚（冷
 たさ）・^{あつかく} 圧覚（おす）などがあり、それぞれ ^{かん} を感じる ^{てん} ところ（点）は ^{べつべつ} 別々です。そして、
 これらの ^{てん} 点は、^{かず おお} 数の多さは ^{べつ} 別として、^ま 混じり合 ^あ って、^{ぜんしん} 全身の ^ひ 皮ふに ^な ちらばっているのです。

（監修・保志 宏）



自由神経終末（痛い） メルケル細胞 マイスナー小体（触覚） ルフィニ小体（温かい）
 クラウゼ小体（冷たい） パチニ小体（おしている）

